

様式1 (自己評価及び学校関係者評価)

令和5年度 自己評価結果 及び 学校関係者評価結果報告書

学校教育目標	船橋市立習志野台中学校
校訓:「立志」「自立」 学校教育目標:志を立て、夢に向かって自ら努力する生徒の育成	校長 大谷 泰彦

＜学校関係者評価委員会等の構成員＞

・該当する欄すべてに人数を記入してください。(「その他」の欄に記入する場合は、具体的に記述してください)

	保護者	地域住民 (保護者除く)	青少年健全育成 関係団体の関係者	接続する 学校の教職員	その他	合計
学校評議員または 学校運営協議会委員	1人	6人	1人			
その他						

＜公表の方法＞

※該当する欄すべてに○印を記入してください。(「その他」の欄に記載する場合は、具体的に記述してください) ※ホームページでの公表は必須です

	学校だより	学校のホームページ	その他
自己評価	○	○	
学校関係者評価	○	○	

＜学校評価に基づく学校運営への改善＞

※前年度の学校評価に基づく今年度の学校運営の改善について、該当するところに○印をつけ、その理由を成果と課題の両面からお答えください

よく改善できた	まあまあ改善できた	あまり改善できなかった	ほとんど改善できなかった
	○		
〈理由〉 昨年度からの課題である主体的・対話的な学習方法やその評価方法については、講師を招聘するなどして研修を深めることができた。また、わかる授業の実践等、生徒が授業の内容を理解できるよう研修会や教科部会で指導方法の研鑽を積む。			

分野	重点目標	評価項目	達成・取り組み状況の評価	自己評価結果の考察に基づく今後の改善方策	学校関係者評価及び意見	自己評価結果と学校関係者評価結果を踏まえた今後の改善方策
教育目標	<ul style="list-style-type: none"> ・自ら学ぶ生徒の育成と基礎学力の育成を図る学習指導。 ・心の通う生徒指導と生活指導の徹底。 ・実践することで学ぶ特別活動。 ・思いやりの心と実践力を育てる道徳、人権教育。 ・健康、体力の増進と安全教育の徹底。 ・教育環境の整備と充実。 ・家庭、地域との連携の重視と特色ある学校作り。 ・特別支援教育の充実を支える学校体制をつくる。 ・学校図書館の積極的な活用。 ・教職員の育成及び指導力の向上。 	1 校訓および学校教育目標(「立志・自立」～志を立て、夢に向かって自ら努力する生徒の育成～)の具現化に向け、「目指す生徒像」(自学・挨拶・掃除・時間)に迫ることができた。	特に、「目指す生徒像」に掲げている掃除に関して、黙動・清掃方法・用具の使い方等清掃指導に関する共通理解がさらに必要である。	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者への「学校は、校訓および教育目標や目指す生徒像をわかりやすく伝えている」という問いに対する肯定的評価は83%、「学校の教育活動は、保護者の期待や願いにそっている」という問いに対する肯定的評価は88%を示している。この数値から、本校の教育活動は、多くの保護者から理解を得ていると思われる。さらに、生徒の自主性を育てるために、職員がもっと話せる雰囲気をつくり、指導目的の再確認や指導方法の共通理解を図りたい。清掃活動に関しては、再検討する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○目指す生徒像(自学・挨拶・掃除・時間)学校像すべてにおいて考えを出し合い話し合える関係であることが目標に近づく一歩だと思える。 ○R4よりR5のAが昨年に比べて減っているのが気になります。目標は全員で共有するのが大事だと思います。 ○教育目標の見直しを図ることも必要である。 ○安全については、良くコミュニケーションをとってほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ○学校教育目標の具現化に向けて、今後もさらなる研鑽を積んで、全教職員が意識して取り組めるようにしていきたい。 ○「目指す生徒像」実現のため、具体的な手立てについて共通理解のもと進めていきたい。また、清掃活動についても生徒指導部や管理部を中心に「目指す生徒像」や具体的な手立てを見直していきたい。
		2 校訓および学校教育目標(「立志・自立」～志を立て、夢に向かって自ら努力する生徒～)の具現化に向け、「目指す教職員像」(生徒に寄り添う・わかる授業・地域を愛する)に迫ることができた。	生徒に寄り添う →時間に制約が多い中だったが、生徒に少しでも寄り添えられるよう努めた。 わかる授業 →常に改善し続けるよう努める。 地域を愛する →来年度からのコミュニティスクールに向け、外部講師を招き、校内研修会を実施した。			
		3 校訓および学校教育目標(「立志・自立」～志を立て、夢に向かって自ら努力する生徒～)の具現化に向け、「目指す学校像」(学ぶ意欲・正義・安全・一人一人に応じた支援・信頼)に迫ることができた。	一部、共通理解に課題があったとの意見があった。また、知・徳・体のバランスのとれた教育課程の実施をするよう更なる授業改善と道徳教育の充実を図る必要がある。			

分野	重点目標	評価項目	達成・取り組み状況の評価	自己評価結果の考察に基づく今後の改善方策	学校関係者評価及び意見	自己評価結果と学校関係者評価結果を踏まえた今後の改善方策
学校	<ul style="list-style-type: none"> ・全職員の共通理解と実践を基として、学校教育目標達成のために創意ある学校運営と時代の要請にふさわしい学校づくりを目指す。 	4 校訓および学校教育目標は、学校・生徒・地域の実態に即していた。	校訓の設定自体はいいが、それを実現するような働きかけが必要である。	<ul style="list-style-type: none"> 初若年層の育成とともにミドルリーダーの育成も急務である。また、国の方針や社会情勢にもよるが、調査等が増え、勤務時間が長くなり、働き方改革については課題が残った。 	<ul style="list-style-type: none"> ○今後ともご指導よろしくお願ひいたします。 ○R4よりR5のAが昨年に比べて減っているのが気になります。目標は全員で共有するのが大事だと思います。 	<ul style="list-style-type: none"> ○初若年層が増え、校務分掌の配置には頭を悩ませている。できる限り年齢や経験等に偏りがないうち配置していきたいが、初若年層に任さざるを得ないこともあるので、資料や今後の課題など
		5 職員は、校訓および学校教育目標や重点目標の意義を理解し、その実現に向け協同して教育を実践していた。	教育目標の具現化に向け、教育課程の編成、指導計画の作成等工夫し、意思統一が必要である。			

経営・組織運営		6 校務分掌組織の形態は、本校の実情に即し機能的なものになっていた。	担当任せのところがあったり、一部の担当に業務が集中したりするなど、改善すべき点がある。		○校務分掌が重すぎるなどの意見が多く、組織運営に限界を感じます。 ○教職員の連携がとれていないことがあるようである。学年を越えた相談・提案などができるよう連携を築いてほしい。 ○若い先生が多く、大変だと思いますが、フォロー体制をお願い	を引き継げるようにしていきたい。 ○初若年層が相談しやすいような環境づくりを進めていきたい。 ○得意な分野で実力が発揮できるよう管理職との面接を充実させ、適正と能力を勘案しながら組織づくりを行っていきたい。
学年学級経営	<ul style="list-style-type: none"> ・学年、学級経営を充実させ、計画的な学級活動を通して、個及び集団を育て正義が通る学級づくりを進める。 	8 学年内の分掌や組織をとおし、各自がリーダーシップを発揮し、スムーズな学年運営が進められていた。	各指導部と学年の連携を密にした指導体制を確立することを目指した。特に、それぞれのリーダーを中心として、チームワークのとれた体制を構築する必要性を感じた。	<ul style="list-style-type: none"> ・朝の打ち合わせを行わず週報のみとするなど、業務の負担軽減に努めているが、情報共有はもっと互いが意識していく必要があると感じた。特に、PC上の「クラスルーム」の活用を徹底したい。 ・清掃活動は学校教育目標の具体的な取り組みにも掲げており、取り組みを向上させていきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ○今後ともご指導よろしくお願ひいたします。 ○学年・学級経営は重要であるため、職員間の話しやすい環境づくりが求められる。学級で差が出ないよう学年で話し合うことが必要である。 ○保護者の意見にもありましたが、配付物に問題がありそうです。保護者参加の行事は、早めに知らせる等、工夫をお願いします。(学校だよりの有効活用等) 	<ul style="list-style-type: none"> ○ミドルリーダーを担う年齢層が少ないので、初若年層の育成を進めていくとともに、OJTによってベテラン層から初若年層に仕事を引き継いでいけるよう、スキルアップを図っていききたい。 ○ミドルリーダーへのサポートや初若年層教員の報告・連絡・相談がしやすい環境づくりに努めていく。OJTによってベテランからミドルリーダーや初若年層に仕事を引き継いでいけるよう、スキルアップを図っていききたい。 ○学校からの配付物について工夫を凝らす必要がある。
	<ul style="list-style-type: none"> ・授業改善に努め、基礎的・基本的事項の徹底と個に応じた指導及び知識・技能の活用を図る単元開発を通じて、学力の向上 	12 教育課程(各教科道徳特活行事等)は全体的な調和のもとに編成されていた。	時数の偏りや、日課の設定など、生徒や教員の動きに即したものにしていく必要がある。	<ul style="list-style-type: none"> ・教師にとって一番大切な教科指導力を向上させるため、教科部会の充実を図るとともに、有意義な授業研究や検討会を継続していきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ○学校行事の実施時期の再検討が必要である。 ○先生方の努力を高く評価したい。時間確保が大変だと思うが基 	<ul style="list-style-type: none"> ○引き続き学習指導を充実させていきたい。教科部会を中心に指導方法の工夫や学習指導要領の観点に則した教材研究や
		13 教科の年間指導計画や学習指導案は改善され、より適切なものとなった。	昨年度よりは実態に合ったものを作成できたと思う。また、今年度は学校訪問があったため見直せた。			

教育課程・学習指導	を図る。 ・自主的な学習習慣と態度の育成を図る。	14 学校行事の種類・内容・実施時期・規模等は適切であった。	行事の内容を見直し、厳選する必要がある。日程調整や工夫、実施の見極め等課題は残るが今すべきことを行う。	・評価・評定についても各教科部会で検討を重ねてきた。 ・ICTを活用した指導方法の工夫についても研修や検討を進めていきたい。 ・各種行事の反省資料を活用し、改善していけるとよい。	礎学力の充実のため補習などが行われるといいと思う。 ○学校行事の確認等先生方のコミュニケーションをお願いいたします。 ○合唱祭は、学級がまとまりとてもよい行事だと思います。時間のやりくりが大変との意見がありましたが、ぜひ継続して行ってほしいと思います。	評価材料を検討し、研鑽を積んでいく必要がある。 ○定期テスト前の「質問会」の取り組みを継続し、さらに基礎的な知識が習得できるよう検討していきたい。 ○行事については生徒の充実感や達成感を確保しながら、精選についても考えていく必要がある。
生徒指導・道徳教育	・生徒指導体制を確立し、共通理解を元に組織で行動できる教師集団を目指す。 ・基本的な生活習慣と望ましい生活態度の形成を図る。 ・「目指す生徒像」を通し生徒とともに創りあげる学校を目指す。 ・教師と生徒、生徒同士など語り合いを通して、信頼できる人間関係の構築に努める。 ・道徳の授業の確保に努め、意図的、計画的な実践を通して生徒一人一人の道徳的実践力を高める。	18 教育活動全般をとおして、基本的な生活習慣を身につけさせることができた	服装や時間について共通認識を図っていきたい。目指す生徒像を日常から意識して指導にあたりたい。	・4月に「情報モラル集会」を行い、「いじめNO宣言」に繋げていけるよう試みた。 ・「いじめNO宣言」が生徒にさらに浸透する取り組みを進めていきたい。 ・「いじめ」については、早期発見・早期対応・早期解決できるように「報告・連絡・相談」を徹底するよう、初若年層を中心に声かけを行った。 ・道徳の授業において、初若年層が先輩教員の授業を見られる機会があるとよかった。お互いに授業を参観し合える環境をつくっていきたい。	○「学校いじめ防止基本方針」が公表されて、いじめが絶対だめとの認識が浸透してきてよいと思います。9割の人が早期対応していると感じていることは素晴らしいです。今後は100%達成を目指して取り組んでいきたいと思っております。 ○生徒観察を通じていじめ難度の早期発見、早期対応にも努めていただきたい。親との連絡も密にとっていただきたい。道徳時間の確保は大切だと思います。 ○いじめについて、“ネットとのルール、マナー”の教育をよろしく願います。 ○道徳は時間が少ないのですが、時代に	○「習志野台中学校のきまり」関連は、生徒・保護者・職員の意見を吸い上げ、職員間で共通理解を図っていききたい。 ○生徒指導については、学年職員や生徒指導主事も連携しながら、解決へ向けた取り組みができるようにしたい。 ○温暖化による影響もあることから、衣替えの移行期間も検討していきたい。 ○考え、議論する道徳を実践していく。
		19 担任一人任せにせず、職員の間で共通理解と相互協力のもとで、生徒指導を組織的にすすめることができた。	各学年ごとの報告・連絡・相談の遅れや生徒指導案件に対する学校全体の動きが共有できていないことがあったので、生徒指導主事を中心に組織で動く。			
		20 生徒と教師間の「語り合い」や教育相談(教育相談週間・チャンス相談)等とおし、生徒理解を進めるとともに、好ましい信頼関係を築くことができた。	「信頼関係の構築」の方法について、自発来談できる雰囲気等が大切であると感じている。			
		21 いじめアンケート等も活用しながら、生徒の人間関係にアンテナを高くし、いじめの「早期発見・早期対応」及び「再発防止」に努めた。	普段からのコミュニケーションの必要性と教職員一丸となつての生徒指導への取り組みが大切である。			

		22 道徳の授業を計画的に実施するとともに、教育活動全体をとおして生徒の「豊かな心」の育成に努めた。	ローテーション道徳を取り入れたことで、各学級の様子は知ることができよかった。さらに、道徳科を学校全体として大切に作る雰囲気を高めていくことが必要だと考える。		即してしっかり教育していただけたらと思います。	
特別活動等	・各活動において、生徒の自発的な活動を展開し、集団や社会の一員としてよりよい生活や人間関係を築こうとする態度を育み、生徒の可能性を信じ、社会的自立に向け志を立てて自ら努力するように導き、支えることを目指す。	23 生徒会活動(全校評議会、生徒会行事、専門委員会等)は適切に実施された。	全校評議会や専門委員会で職員生徒共にアイデアを出し合って取り組んだ。生徒の自主性を生かした活動ができるように、さらに活発なものになるようにしたい。	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員が、主権者教育を意識し実施することが大切である。 ・生徒の自主性を重んじながら、来年度も活動していきたい。 ・地域性の部分で基盤はできているが、もっと伸ばさせることができるよう、計画を立てて物事を進めていきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ○2年生の職場体験は実施しなかったようですね。とても貴重な体験だと思うので、来年度は仕事の学びを体験してほしいと思います。 ○生徒会、部活動の時間の確保は大変だと思う。生徒の自主性を伸ばすために先生方には見守っていただきたいと思う。 ○生徒会活動が適切に実施された。”そう思う”が減ってきたのが気になります。生徒主体の活動になりますよう、指導をお願いします。 	<ul style="list-style-type: none"> ○生徒会活動では、引き続きリーダーの育成を図り、教師は準備やリハーサルにおいて指導し、本番は生徒たちで作り上げていく行事を実感させたい。 ○部活動は、生徒の成長にも大きく影響を与えるので、活動内容を少しでも充実できるようにしていきたい。
		24 生徒が役割と責任を自覚し自立した集団作りができるよう促すことができた。	生徒主体で動けるように、委員会や行事での教職員側の準備が必要である。			
		25 部活動は計画的な運営により自主性を促し、生徒の責任感や連帯感を養うことができた。	自主性を促すまでの指導を心掛ける。地域移行の進め方をどうするかが課題のひとつである。			
	・災害への日常の備えや的確な避難行動ができるようにし、防災意識の高揚を図る。	26 危機管理マニュアルに基づき、安全(交通安全・生活安全・災害安全)に関する指導が計画的に行われていた。	スケアードストレイトによる交通安全に関する学習を実施したことはよかった。来年度も防災訓練を計画的に進めることが必要である。マニュアルの見直しも進めていきたい。	・学校が避難所になることも想定して、具体的な対応について「危機管理マニュアル」を見直していきたい。	○登下校の服装についてですが、生徒のカバン荷物量を考えると動きやすいジャー	○寒い時期の登下校時の服装や校則の見直しについて検討し、生徒・保護者のニーズ

健康・安全	・栄養指導を充実し、体力の向上と健康の増進を図る。	27 学校の給食計画に基づき、給食指導と食育が適切に行われた。	安心安全な給食を実施することができた。また、アレルギー対応等の職員研修を実施した。	・年度はじめに食物アレルギー対応の保護者面談を実施し、その把握と適切な対応に努める。 ・今後も感染症予防に留意していくとともに、経験をもとに工夫した取り組みをしていきたい。	ジ登校でよいと思います。また、寒い時期の上着着用の検討をしてもよいのかもしれない。 ○健康、安全については、日頃から安全指導、健康指導を適切に行うことが大切だが、家庭の中でもしっかりやっていただきたい。 ○制服については、変更を進めているとのことでしたので、多くの意見を取り入れ、進めていただけたらと思います。 ○食育教育、しっかりお願いします。	に込めたい。 ○学校が避難所となることも想定して「危機管理マニュアル」を見直していく。自治会にも防災倉庫について知ってもらおう。 ○各種感染症予防に努め、経験をもとに工夫した取り組みを行っていききたい。
		28 学校の保健計画に基づき、生徒の健康指導と管理が適切に行われていた。	健康観察等による徹底した取り組みができた。フォーム等による欠席連絡方法等を用い効率化を図った。			
	・特別支援教育コーディネーターの役割を明確にして、校内委員会の機能を生かし関係機関と連携した総合的な支援体制の整備を推進する。	29 生徒支援・特別支援について、学校として適切な指導体制を構築することができた。	生徒支援室から学級への復帰に対して、どのようにアプローチしていけばよいのかが大きな課題である。生徒支援室との連携の必要性を深く感じた。	・特別な支援を必要とする生徒の調査を行い、その生徒に必要な手立てを見つけた。 ・情報交換を充実し、コーディネーターによる研修等を企画していきたい。	○先生は教科の授業をしなくても、支援室を週1時間担当する案がありました。忙しいなかで大変だとは思いますが、是非実施してほしいと思います。	○4月当初に支援室や合理的配慮が必要な生徒について、全体で共通理解を図る場を設ける必要がある。 ○各学年とコーディネーターおよび情緒
		30 各職員が、特別な支援を必要とする生徒を理解し対応することができた。	教職員一人一人の特別支援への意識を高めることが必要である。研修・研鑽の必要性を感じる。			

生徒支援・特別支援	31 長欠傾向の生徒に対する指導は十分であった。	粘り強く生徒にかかわることの大切さを再認識した。	<ul style="list-style-type: none"> ・通常学級の生徒との交流を進め、人としての優しさを学ばせたい。 ・長欠傾向の生徒やその保護者、生徒支援室を利用する生徒への関わりを大切にしていきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ○指導体制を見直し、教員が特別支援への関心を高めて教員同士で共有することが望ましいし、親との相談にもものっていただきたい。 ○長欠傾向の生徒は増えてきていると認識しています。一人一人事情が違うと思うので大変だと思いますが、フォローをよろしく願います。 ○支援を必要とする生徒は今後も増えると予測しています。支援教育への理解をさらに深め、学校、保護者協力により質を高めてほ 	学級担任が連携して、その生徒に必要な手立てを探っていききたい。また、コーディネーターによる研修等も企画していききたい。	
施設設備・情報管理	<ul style="list-style-type: none"> ・教育環境の整備・充実を図るとともに、情報セキュリティに留意する。 	32 学校の施設・設備及び備品の管理は適切であった。	老朽化が進み修繕箇所が増えているため、関係機関との調整が必要である。	<ul style="list-style-type: none"> ・施設の老朽化が進み、修繕箇所が増え関係機関へ対応してもらっているが、工期や日程の調整が難しい面があった。 ・昨年度、情報セキュリティの外部監査の対象校になり、聞き取りや関係箇所の現物調査を受けた。調査後、関係機関からの助言等を受け、改善すべき内容が明らかになり改善に着手した。 	<ul style="list-style-type: none"> ○教育環境の整備と充実については、適切に対応してほしい。特に個人情報に関する管理はしっかりとお願いしたい。 ○整理整頓は日程を決めて一斉にやるのも良いかもしれません。 ○情報セキュリティは引き続きデータ管理含めて、よろしく願います。 ○習志野台中親父の会OBにお声掛けいただければ草取り作業をいたします。 	<ul style="list-style-type: none"> ○修繕箇所の発見・報告・修繕依頼がスムーズに流れるようにしていく。 ○習台通信やホームページを活用し、学校の様子を多く発信していきたい。 ○ICTの積極的活用を検討していきたい。 ○引き続き、個人情報の管理を徹底していくとともに、ICT活用に伴う問題点を把握し、解決策を考えていきたい。
	<ul style="list-style-type: none"> ・地域社会、関係機関との連携を密に図り、 	33 情報セキュリティに配慮するとともに、個人情報等の管理は適切であった。	情報セキュリティ監査による助言等を受け、改善すべき内容が明らかになり、職員の意識が徐々に高くなっている。	<ul style="list-style-type: none"> ・PTAの多大なる協力で、 	<ul style="list-style-type: none"> ○吹奏楽部の皆さんは、2023.3.12「第10 	
	34 本校におけるPTAの活動は適切であった。	職員の肯定的な評価が昨年度同様に高評価を維持できた。	<ul style="list-style-type: none"> ・PTAの多大なる協力で、 	<ul style="list-style-type: none"> ○吹奏楽部の皆さんは、2023.3.12「第10 	○PTA会長と連携を密にして、学教行事な	

地域連携	相互の情報交換を通して、教育の醸成に努める。	35 生徒の育成にあたり、保護者・地域の方との連携を図り、活動できた。	地域貢献活動を増やしたいとの意見があった。コミュニティスクールが始まることで、さらに連携を図っていきたい。	催した。また、卒業式に向け卒業生や保護者が喜ぶ掲示物を作成するなどの企画をしている。 ・PTA発行の通信やPTA主催の生徒向け・保護者向けのアンケートは毎回好評を得ているため、来年度も継続していきたい。	回花いっぱいIN習志野台」に参加して演奏いたしました。おかげさまで習志野台から東日本大震災の被災地の皆さんにエールを送ることができました。地域住民として大変感謝いたします。 ○PTA活動を通じて学校での子どもの姿を知り、親同士の仲間づくり、学校への理解も深まるので、積極的な活動を望む。 ○”地域の方に参加してもらおう授業”…新しい発想で面白いと思います。 ○コミュニティスクールの具体的に全体像が	ど保護者の協力を仰いでいきたい。 ○吹奏楽部等、地域活動への参加を進めていきたい。
------	------------------------	-------------------------------------	---	--	--	--

1. 「いじめ防止等に対する取組み」に関する保護者アンケート結果

	設 問	肯定的評価	否定的評価
1	学校は、「学校いじめ防止基本方針」が公表され、いじめアンケートの実施(年3回)、いじめ相談窓口の設置等をおして、いじめのない学校づくりに取り組んでいる。	93%	7%
2		%	%
3		%	%
4		%	%
5		%	%
6		%	%

※「学校に楽しく通っている」等の設問ではなく、「いじめ防止」に特化した具体的な設問の結果を入力してください。

2. 「教育相談体制の充実」に関する保護者アンケート結果

	設 問	肯定的評価	否定的評価
1	学校は、子供のことで何か様子の変化があるときに、保護者が連絡や相談しやすい体制を整えている。	84%	16%
2	学校は、教育相談週間の設定(年2回)、スクールカウンセラーの活用(随時)等、子供が相談しやすい体制を整えている。	89%	11%
3		%	%
4		%	%
5		%	%
6		%	%

※スクールカウンセラーの配置を踏まえた相談体制についての設問の結果を入力してください。

記入上の注意

- 「設問」は各学校の保護者アンケートの設問を記入してください。欄が不足する場合は、行を追加して構いません。
- 「肯定的評価」……「良い」「できている」「概ね良い」「概ねできている」など。
- 「否定的評価」……「悪い」「あまり良くない」「できていない」「あまりできていない」など。

4. 様式1の「生徒指導」の欄にも、「いじめ防止等に対する取組」と「教育相談体制の充実」に関する項目を入れてください。